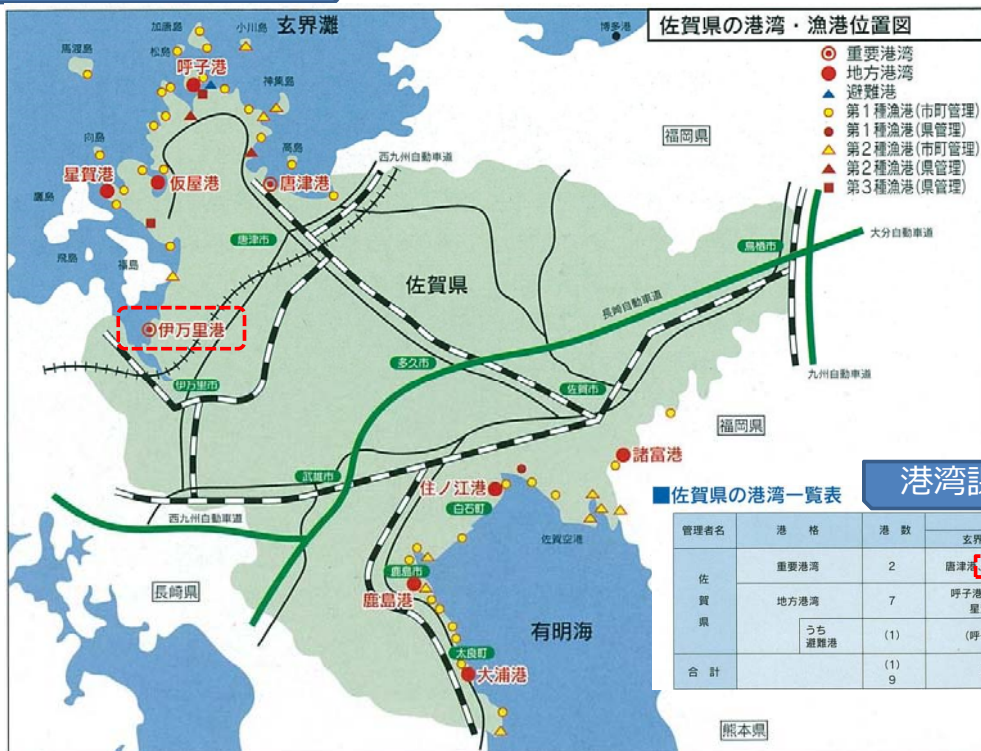


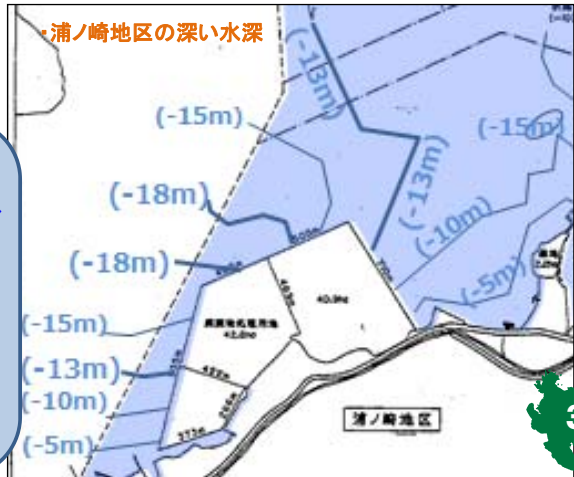
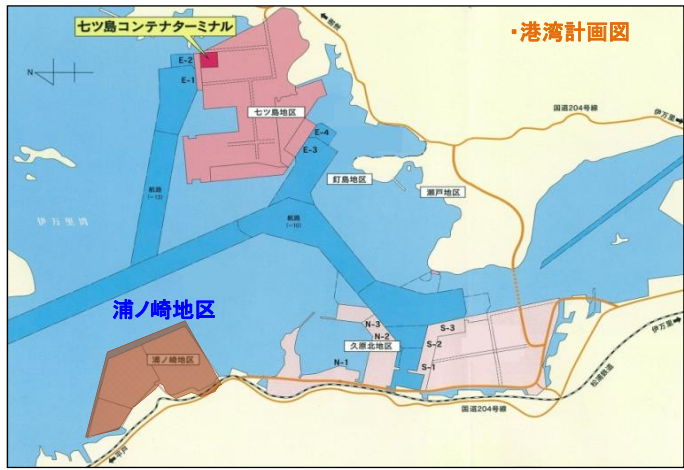
# 【平成28年度 再評価】

## ・廃棄物海面処分場整備事業 伊万里港(浦ノ崎地区)



### 1. 佐賀県の港湾

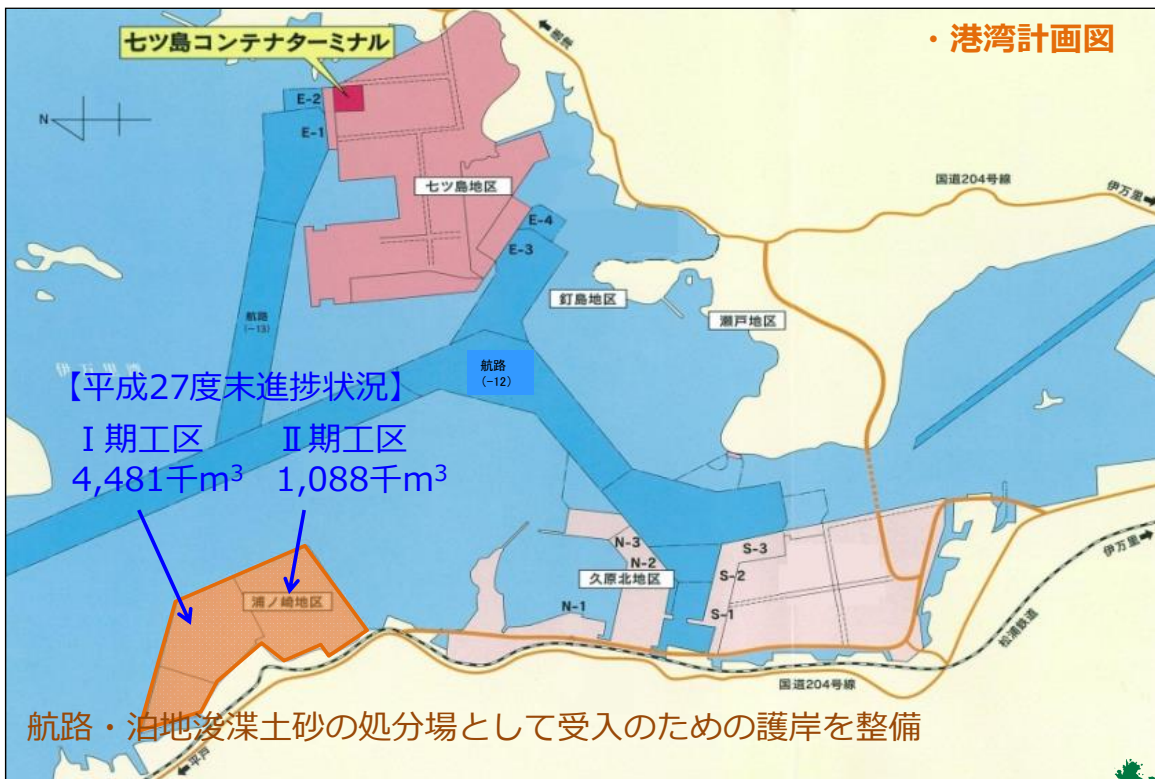




伊万里港は、周囲を東松浦・北松浦半島や福島に囲まれて湾奥に位置するため、静穏で、水深が深い**天然の良港**です。  
 昭和26年に**重要港湾**の指定を受け、平成23年には**日本海側拠点港**に選定されています。  
 また、浦ノ崎地区の埋立進捗状況は、I期工区で85.8%、II期工区で22.8%となっている。



## 3. 廃棄物海面処分場整備事業



## 事業概要

総事業費：265億円

工期：昭和57年度～平成43年度

埋立護岸：L = 4, 160m

- I期工区

事業費：約109.0億円

工期：昭和57年度～平成21年度

埋立護岸：L = 2, 950m

埋立量：V = 5, 224千m<sup>3</sup>

- II期工区

事業費：約155.7億円

工期：平成3年度～平成43年度

埋立護岸：L = 1, 210m

埋立量：V = 4, 776千m<sup>3</sup>

※ I期工区において、埋め立て土砂が圧密沈下したことにより、前回再評価時より、I期工区の受入土量が、1, 079千m<sup>3</sup>増加した。



## 事業の進捗状況

平成27年度末事業費：約240.1億円

平成27年度末進捗率：90.6%

- I期工区

平成27年度末事業費：約109.0億円

平成27年度末進捗率：100%

埋立量：V = 4, 481千m<sup>3</sup> (85.8%)

- II期工区

平成27年度末事業費：約131.1億円

平成27年度末進捗率：84.2%

埋立量：V = 1, 088千m<sup>3</sup> (22.8%)

※ II期工区については、浚渫土砂の受け入れを円滑にするため、外周護岸に開口部を設けておき、船底を開いて土砂投入する土運船が浦ノ崎地区廃棄物処理用地内に直接進入できるようにしておく必要がある。

※ 今後は、浚渫工事の進捗に合わせて、残りの護岸工事に着手する予定である。





#### 4. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

国土交通省では、平成25年をメンテナンス元年と位置付け、社会資本の維持管理に関する取組みが進められている。

県としても、今後、航路・泊地の保全のための維持浚渫を計画的に実施していく必要がある。

そのためには浚渫土砂の受け入れ施設は必要不可欠なものである。

## 5. 費用対効果の要因の変化

- ・事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない

$$\text{費用便益比 (B/C)} = 924.4 / 710.8 = 1.30$$

### 【便益】

浚渫土砂処分コスト削減便益 = 924.4 億円  
合 計 924.4 億円

### 【費用】

事業費 = 707.8 億円  
維持管理費 = 3.0 億円  
合 計 710.8 億円

※基準年（平成28年度）における現在価値



## 6. コスト縮減や代替案等の可能性

### （コスト縮減）

- ・作業船の効率的使用による回航費の縮減に努めてきた。

### （代替案の検討）

- ・特になし



## 7.対応方針（事業課案）

港湾施設（航路・泊地）の整備や保全のため、計画的に浚渫を行う必要があり、浦ノ崎地区廃棄物処理用地において、浚渫土砂の受け入れを継続する必要がある。

これに合わせて本事業で、残る外周護岸の整備に着手することとしており、事業継続を行うものである。

